

III 調查結果

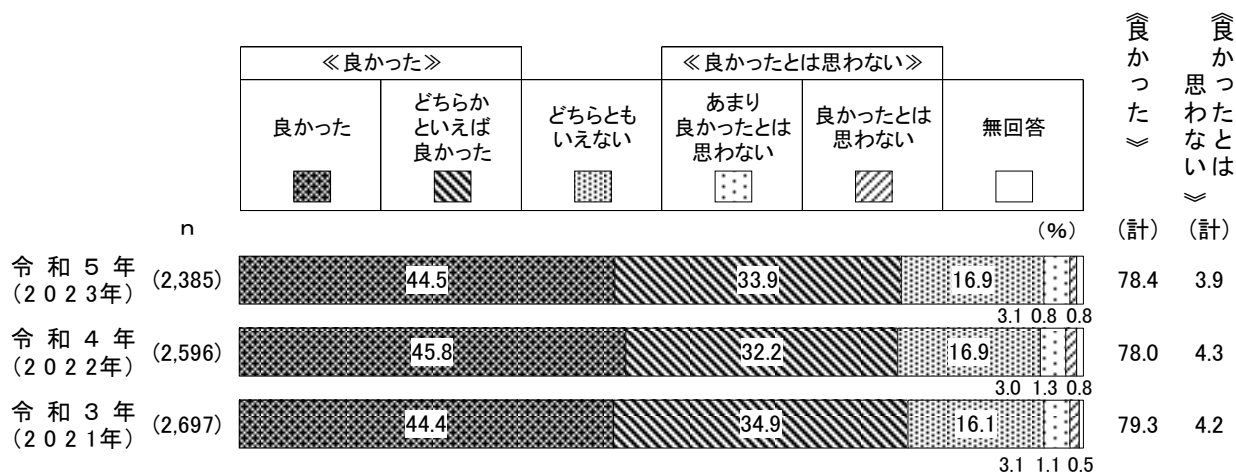
1. 定住意向

(1) 八王子市に住んで良かったと思うか

◇《良かった》が8割近く

問1 あなたは、八王子市に住んで良かったと思いますか。(○は1つだけ)

図1-1-1 八王子市に住んで良かったと思うかー全体、経年比較

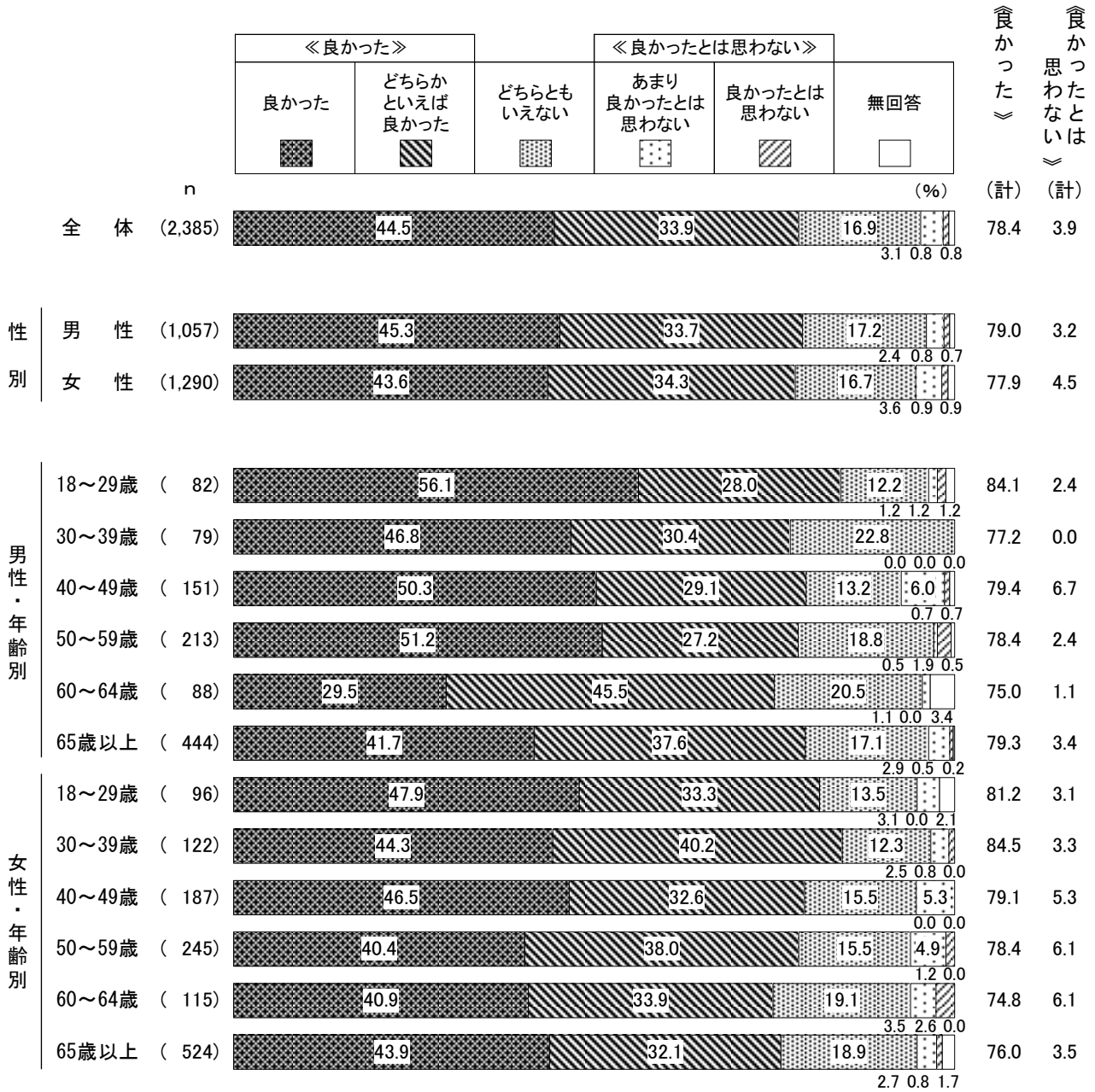


八王子市に住んで良かったと思うか聞いたところ、「良かった」(44.5%)と「どちらかといえば良かった」(33.9%)を合わせた《良かった》(78.4%)は8割近くとなっている。一方、「あまり良かったとは思わない」(3.1%)と「良かったとは思わない」(0.8%)を合わせた《良かったとは思わない》(3.9%)は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」(16.9%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-1-1)

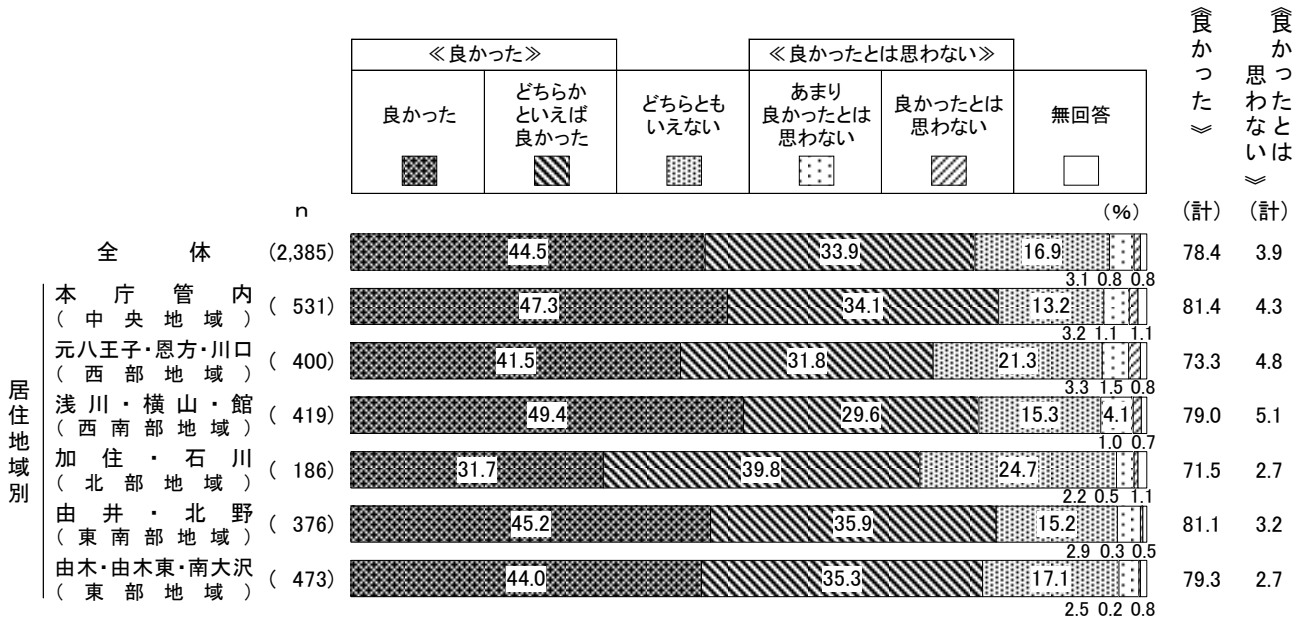
図 1-1-2 八王子市に住んで良かったと思うか—性別、性・年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、《良かった》は女性30～39歳（84.5%）と男性18～29歳（84.1%）で8割台半ばと多くなっている。（図1-1-2）

図 1-1-3 八王子市に住んで良かったと思うか—居住地域別



居住地域別にみると、《良かった》は本庁管内（中央地域）（81.4%）と由井・北野（東南部地域）（81.1%）で8割強と多くなっている。（図 1-1-3）

(2) まちの魅力をどの程度おすすめしたいか

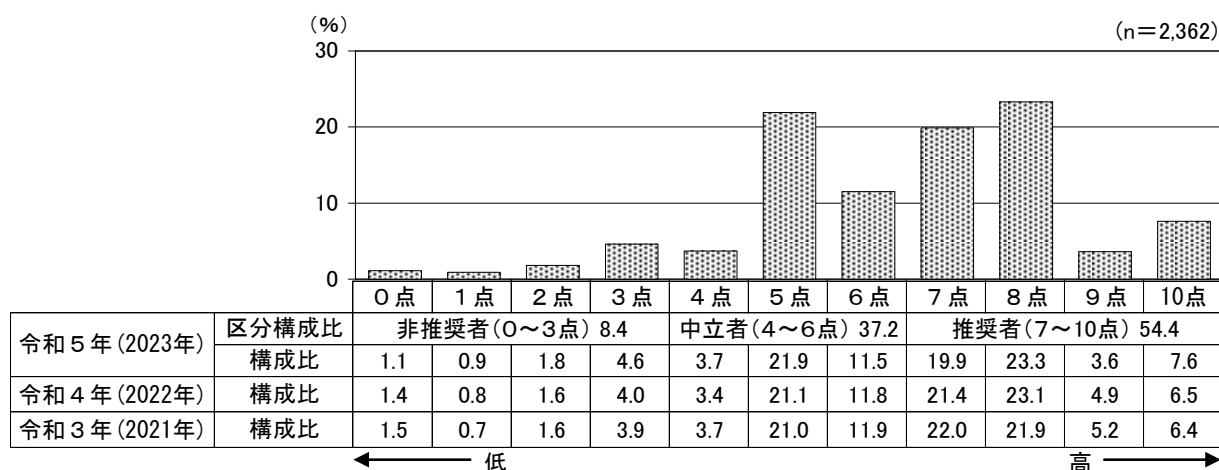
◇自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にすすめたい程度を表す【推奨意欲スコア】は、プラス46.0ポイント

問2 あなたは、自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度おすすめしたいと思いますか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ここでいう「まちの魅力」とは・・・

- 住みやすさ、働きやすさ、子育てしやすさ、交通や買い物の便利さ
- 学習環境、スポーツ環境
- 自然、まちなみ、まちの雰囲気
- お店、グルメ、特産品、農産物
- イベントやお祭り
- 歴史・文化
- 高尾山などの観光スポット
- 人物・企業・団体
- など、どのようなものでも構いません。

図1-2-1 まちの魅力をどの程度おすすめしたいか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 推奨意欲スコアの算出のため、無回答(23人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆推奨意欲スコア

推奨者(54.4%) - 非推奨者(8.4%) = 推奨意欲スコア(+46.0ポイント)

(注) 推奨意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・まちに対する「居住」「来訪」等を推奨する気持ちを0～10点の11段階で測定。
- ・「推奨者」(7～10点を付けた人)、「中立者」(4～6点を付けた人)、「非推奨者」(0～3点を付けた人)に区分して、「推奨者の割合-非推奨者の割合」を計算。
- ・最低-100ポイント(全員が非推奨者)から最高+100ポイント(全員が推奨者)までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度すすめたいかを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《推奨者》が54.4%、4～6点を付けた《中立者》が37.2%、0～3点を付けた《非推奨者》が8.4%となっている。この結果を元に《推奨者》の割合から《非推奨者》の割合を引いた【推奨意欲スコア】は+(プラス)46.0ポイントとなる。

前回までの調査と比較すると、「推奨意欲スコア」は令和4年(2022年)(+48.2ポイント)より2.2ポイント減少している。(図1-2-1)

(3) まちのために活動したいと思うか

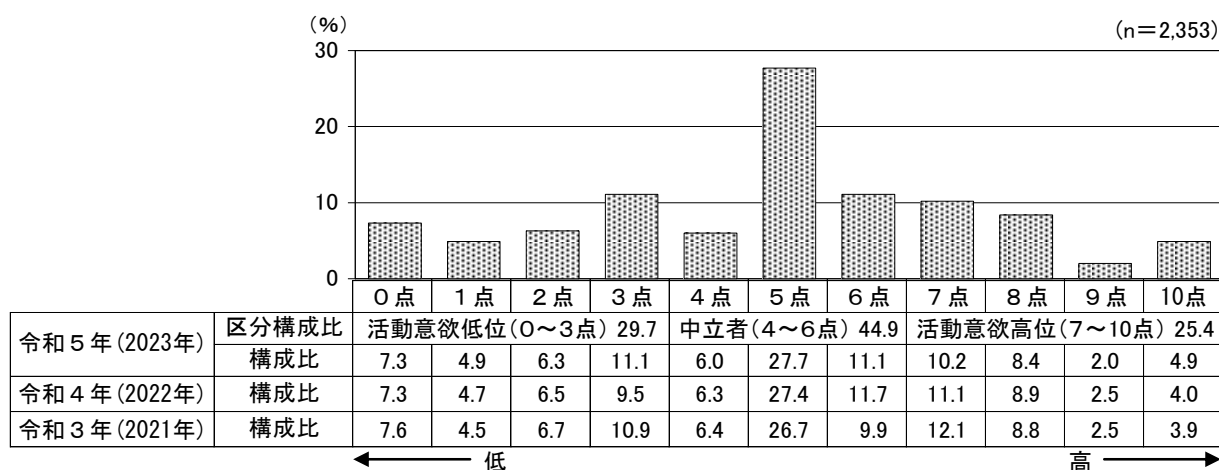
◇自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを表す【活動意欲スコア】は、マイナス4.3ポイント

問3 あなたは、自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちをお持ちですか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ここでの「活動」とは・・・

- 地域のおもしろい情報や役に立つ情報の発信
 - お祭りや文化活動の担い手としての活動
 - イベントの企画・運営やサポート
 - 公園、道路、河川などの維持活動（清掃や除草など）
 - 町会・自治会、子ども会、PTAなどへの参加
 - ボランティアやNPO活動
 - 市政への意見表明や市の審議会などへの参加
- などを幅広く含みます。身近なもの、個人的なものでも構いません。

図1-3-1 まちのために活動したいと思うか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 活動意欲スコアの算出のため、無回答(32人)を除いている。
 (注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆活動意欲スコア

活動意欲高位(25.4%) - 活動意欲低位(29.7%) = 活動意欲スコア(-4.3ポイント)

- (注) 活動意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。
- ・活動への意欲を0~10点の11段階で測定。
 - ・「活動意欲高位」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「活動意欲低位」(0~3点を付けた人)に区分して、「活動意欲高位の割合-活動意欲低位の割合」を計算。
 - ・最低-100ポイント(全員が活動意欲低位)から最高+100ポイント(全員が活動意欲高位)までで評価。
 - ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《活動意欲高位》が25.4%、4～6点を付けた《中立者》が44.9%、0～3点を付けた《活動意欲低位》が29.7%となっている。この結果を元に《活動意欲高位》の割合から《活動意欲低位》の割合を引いた【活動意欲スコア】は－（マイナス）4.3ポイントとなる。

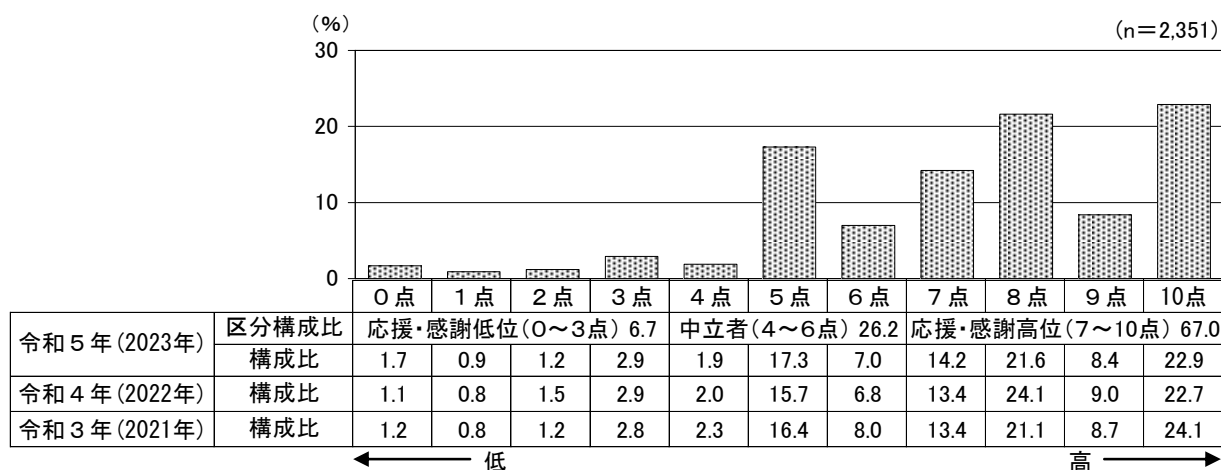
前回までの調査と比較すると、「活動意欲スコア」は令和4年（2022年）（－1.4ポイント）より2.9ポイント減少している。（図1－3－1）

(4) まちのために活動する人への応援や感謝

◇自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを表す【応援・感謝スコア】は、プラス60.3ポイント

問4 あなたは、問3で例示したような活動に参加している人たちに対して、応援したり感謝する気持ちはどのくらいありますか。非常にある場合を10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

図1-4-1 まちのために活動する人への応援や感謝（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 応援・感謝スコアの算出のため、無回答(34人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆応援・感謝スコア

応援・感謝高位(67.0%) - 応援・感謝低位(6.7%) = 応援・感謝スコア(+60.3ポイント)

(注) 応援・感謝スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・ 応援・感謝の気持ちの強さを0~10点の11段階で測定。
- ・ 「応援・感謝高位」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「応援・感謝低位」(0~3点を付けた人)に区分して、「応援・感謝高位の割合-応援・感謝低位の割合」を計算。
- ・ 最低-100ポイント(全員が応援・感謝低位)から最高+100ポイント(全員が応援・感謝高位)までで評価。
- ・ なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを0~10点の11段階で聞いたところ、7~10点を付けた《応援・感謝高位》が67.0%、4~6点を付けた《中立者》が26.2%、0~3点を付けた《応援・感謝低位》が6.7%となっている。この結果を元に《応援・感謝高位》の割合から《応援・感謝低位》の割合を引いた【応援・感謝スコア】は+(プラス)60.3ポイントとなる。

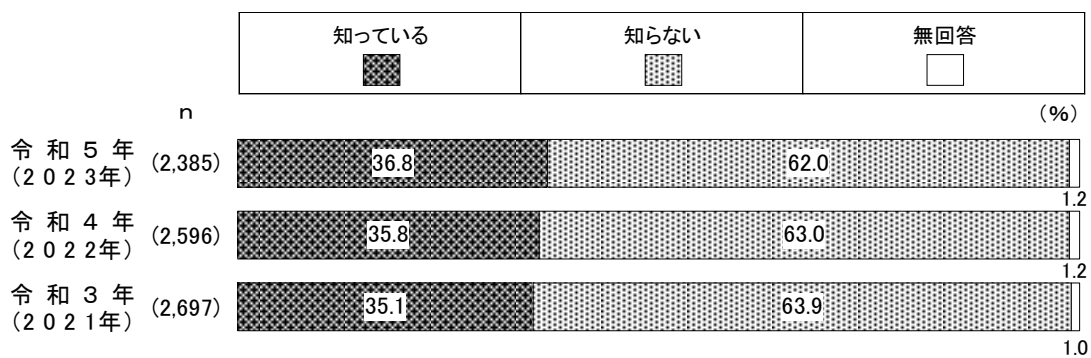
前回の調査と比較すると、「活動意欲スコア」は令和4年(2022年)(62.9ポイント)より2.6ポイント減少している。(図1-4-1)

(5) 市のブランドメッセージの周知度

◇「知っている」が4割近く

問5 あなたは、市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を知っていますか。(〇は1つだけ)

図1-5-1 市のブランドメッセージの周知度-全体、経年比較



八王子市のブランドメッセージを知っているか聞いたところ、「知っている」(36.8%)が4割近く、「知らない」(62.0%)は6割強となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

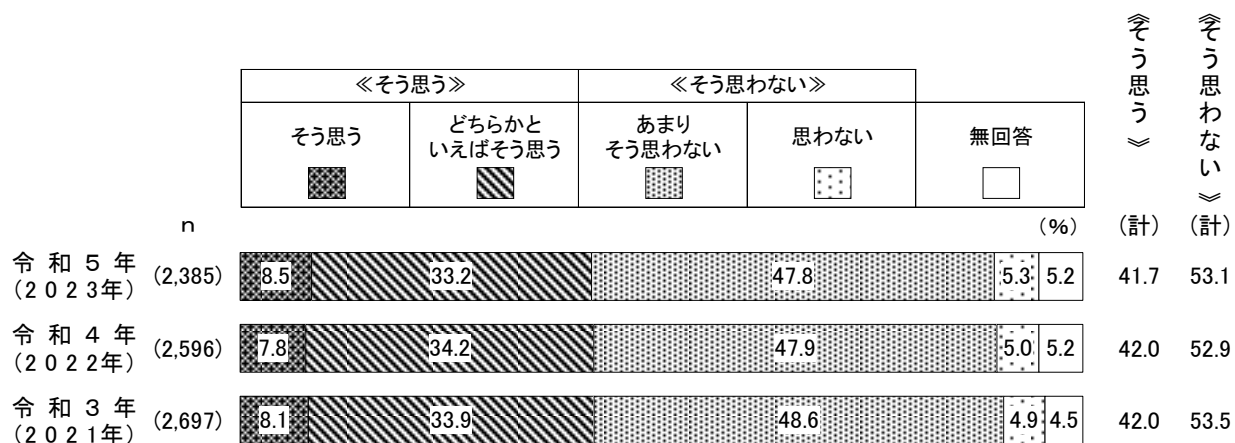
(図1-5-1)

(6) ブランドメッセージどおりのまちと思うか

◇《《そう思う》》が4割強

問6 八王子市は、あなたにとってブランドメッセージどおりのまちであると思いますか。
(○は1つだけ)

図1-6-1 ブランドメッセージどおりのまちと思うかー全体、経年比較



八王子市はブランドメッセージどおりのまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(8.5%)と「どちらかといえばそう思う」(33.2%)を合わせた《《そう思う》》(41.7%)は4割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(47.8%)と「思わない」(5.3%)を合わせた《《そう思わない》》(53.1%)は5割強となっている。

前回の調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-6-1)

(7) ブランドメッセージどおりのまちであると思う理由（自由意見）

（問6で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」とお答えの方へ）

問6-1 そのように感じる理由を、以下の欄にご自由にお書きください。（自由記述）

八王子市はブランドメッセージどおりのまちであると思うかについて「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた994人に、そのように感じる理由を自由記述形式で聞いたところ、599人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがあ

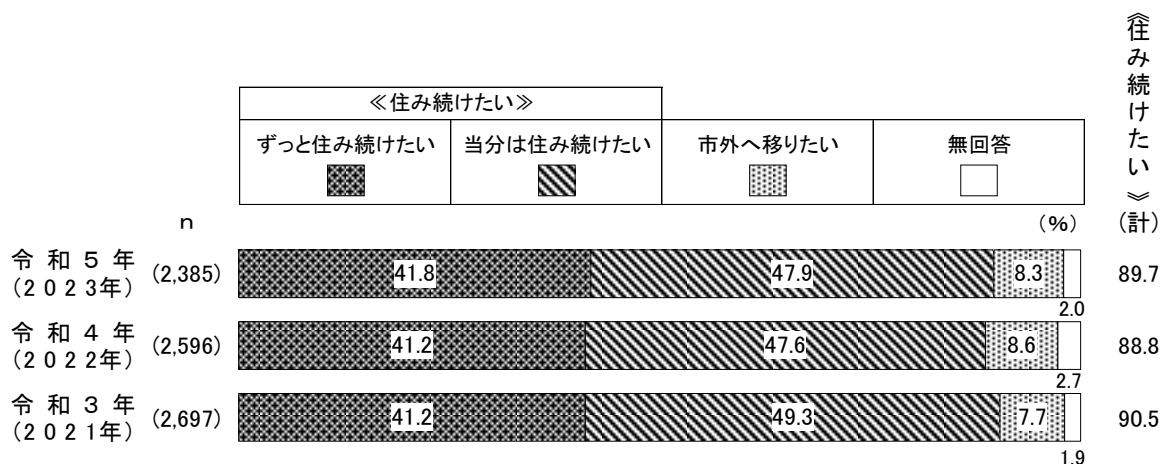
- 市内だけで様々な歴史文化があり、観光地もあり、学園都市でもあり、そのうえ都市部からも遠くない距離にある八王子市。触れる文化も多く、ここを拠点として自分のやりたいことを見つけやすく歩みやすいと思うから。（女性18～29歳）
- 市内や近隣市町村に大学が多く、公立小中学校も徒歩圏内にたくさんある。選んで少し遠いところから通う人も中学に多くいた。特に教育において、公立私立含めて選択肢がある市だと思う。（女性18～29歳）
- 都会にアクセスできる地にありながら、のびのびと過ごせるので、自分の理想を実現しやすいように感じたから。（女性30～39歳）
- 自然豊かな場所も、駅前などの中心部も、少し歩くことで新しい発見があり、楽しい街だと思うから。（男性30～39歳）
- 自然が多くあり、のんびりとした雰囲気を感じつつ、にぎやかな都会的な場所もあり、気分によって使い分けできるから。（女性40～49歳）
- 在宅勤務を機に高尾に移住。山を歩きたい、山の近くに住みたいと思っての移住だったので、今、好きな山歩きがすぐにできる環境は、“私のみち”を歩いていると思う。（女性40～49歳）
- 田舎らしさ、東京らしさの両方があったり、住む場所も学ぶ場所も遊ぶ場所もたくさんあったり、「選ぶ」ことができる環境だと思うから。（女性40～49歳）
- 働くにも学ぶにもレジャーにも、ちょうど良い距離にあって、市内にも魅力があって住みやすい。（男性40～49歳）
- 広い市内にさまざまな異なった要素が詰めこまれた町であること。市内全体の治安がわりと良いこと。八王子に転入した決め手がこれでした。（女性50～59歳）
- 学ぶ場所、遊ぶ場所のバランスがよく、生活に必要な施設も完備されていて、自分の思い描く生活スタイルによって自由に選べる場所。（女性50～59歳）
- 学べる場所や遊べる場所、やりたいと思うことにチャレンジできる環境が多くあると感じられるから。（男性50～59歳）
- 外国人観光客にも良く知られている高尾山など自然に恵まれた環境にある一方、都心にも気楽に行ける便利な条件がそろっている。（女性65歳以上）
- 山が近く、川もきれいで、駅周辺は都会のセンスがあり、なかなか良いバランスがとれていると思う。偏ってなくていい。（男性65歳以上）
- 自然環境が豊か（高尾山周辺、浅川周辺など）。スポーツ施設が充実している（富士森競技場、上柚木競技場など）。（男性65歳以上）

(8) 定住意向

◇《《住み続けたい》が9割弱

問7 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-8-1 定住意向—全体、経年比較

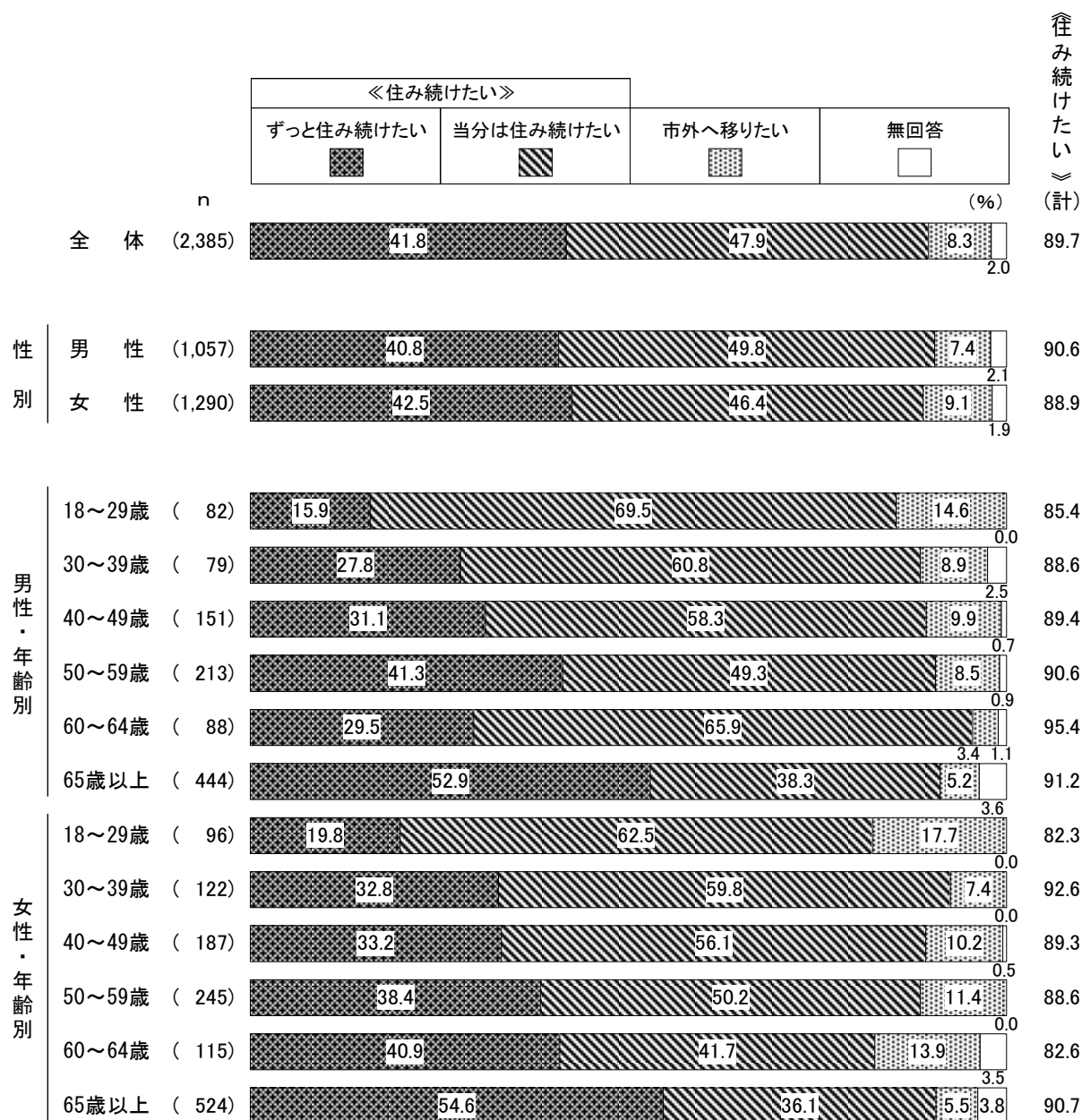


これからも八王子市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(41.8%)と「当分は住み続けたい」(47.9%)を合わせた《住み続けたい》(89.7%)は9割弱となっている。一方、「市外へ移りたい」(8.3%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-8-1)

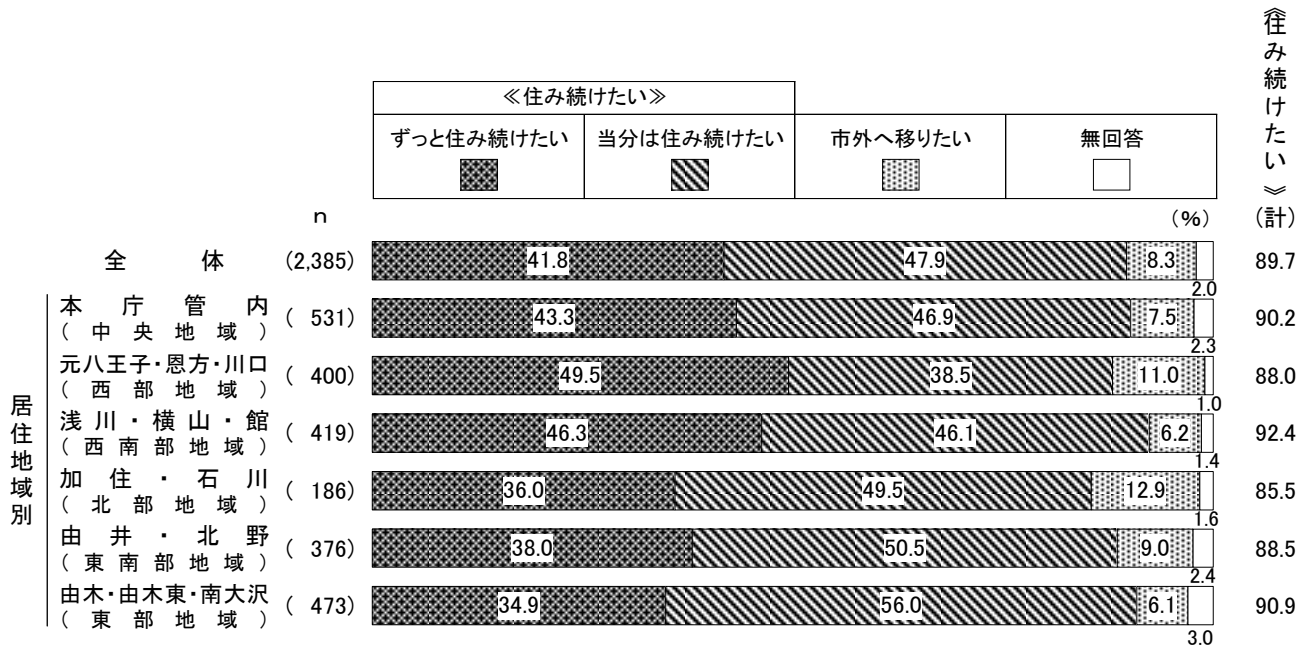
図1-8-2 定住意向—性別、性・年齢別



性別にみると、「当分は住み続けたい」は男性（49.8%）が女性（46.4%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は女性65歳以上（54.6%）で5割台半ばと多くなっている。《住み続けたい》は男性60～64歳（95.4%）で9割台半ばと多くなっている。一方、「市外へ移りたい」は女性18～29歳（17.7%）で2割近くとなっている。（図1-8-2）

図 1-8-3 定住意向-居住地域別



居住地域別にみると、《住み続けたい》は浅川・横山・館（西南部地域）（92.4%）で9割強と多くなっている。（図1-8-3）

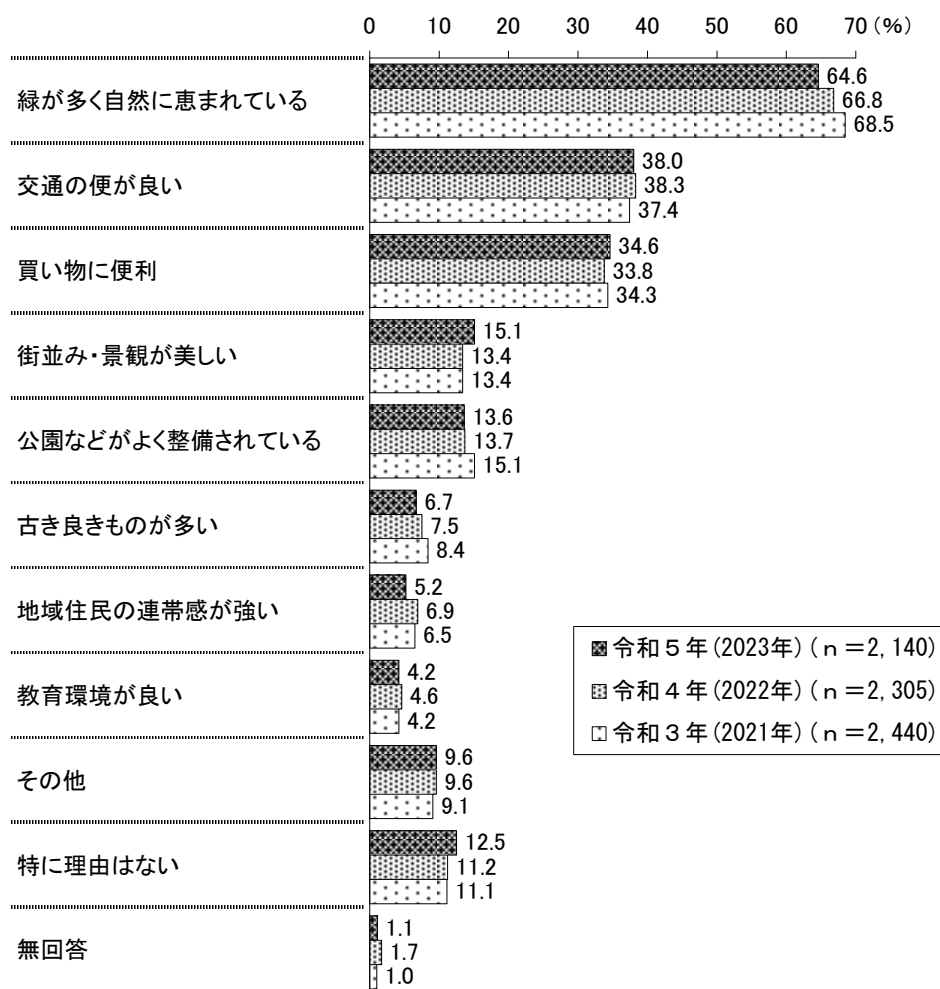
(9) 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が6割台半ば

(問7で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方へ)

問7-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

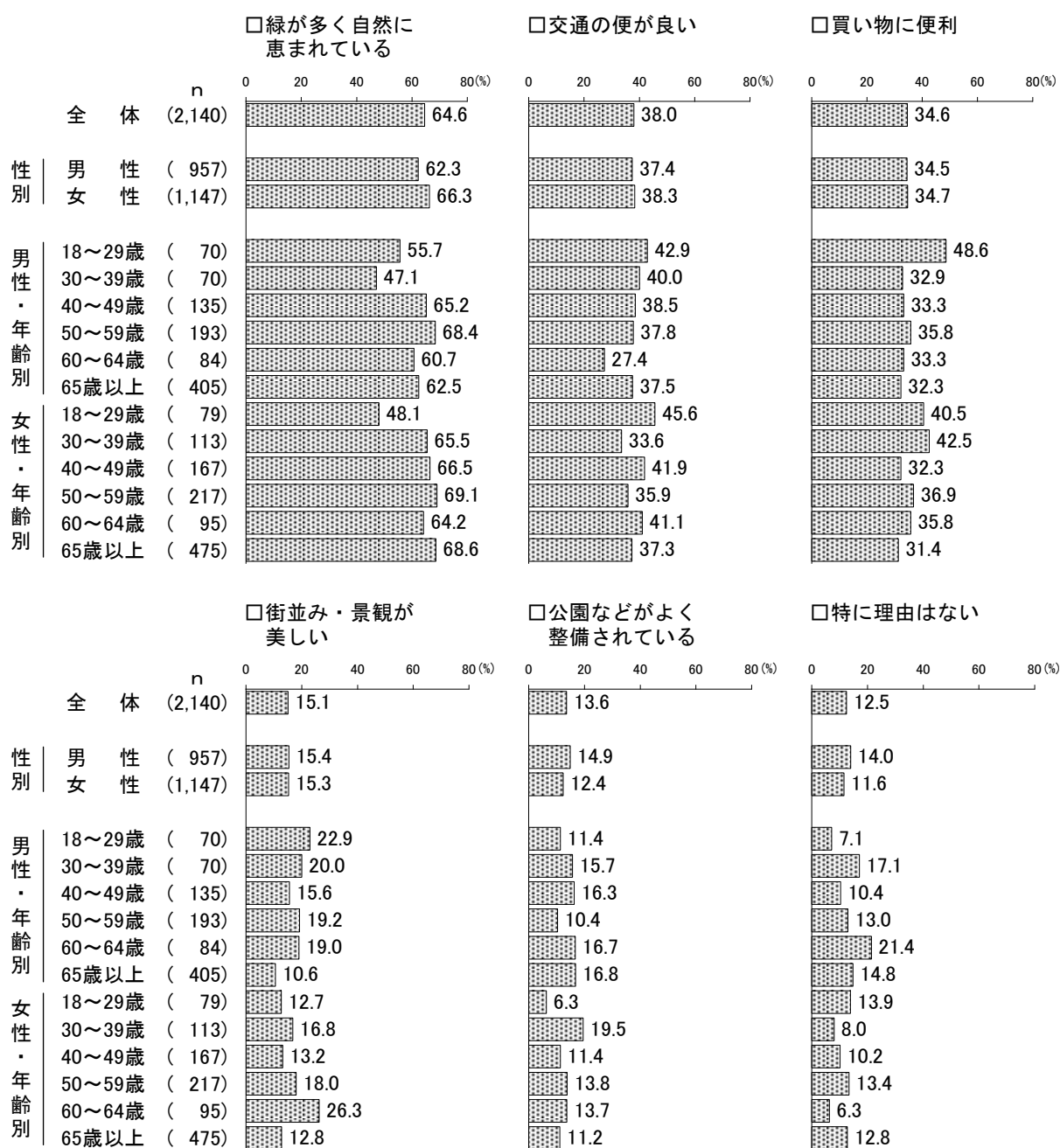
図1-9-1 住み続けたい理由-全体、経年比較



八王子市に「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した2,140人に、その理由を聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(64.6%)が6割台半ばで最も多くなっている。次いで「交通の便が良い」(38.0%)、「買い物に便利」(34.6%)、「街並み・景観が美しい」(15.1%)、「公園などがよく整備されている」(13.6%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「緑が多く自然に恵まれている」は令和4年(2022年)(66.8%)より2.2ポイント減少している。(図1-9-1)

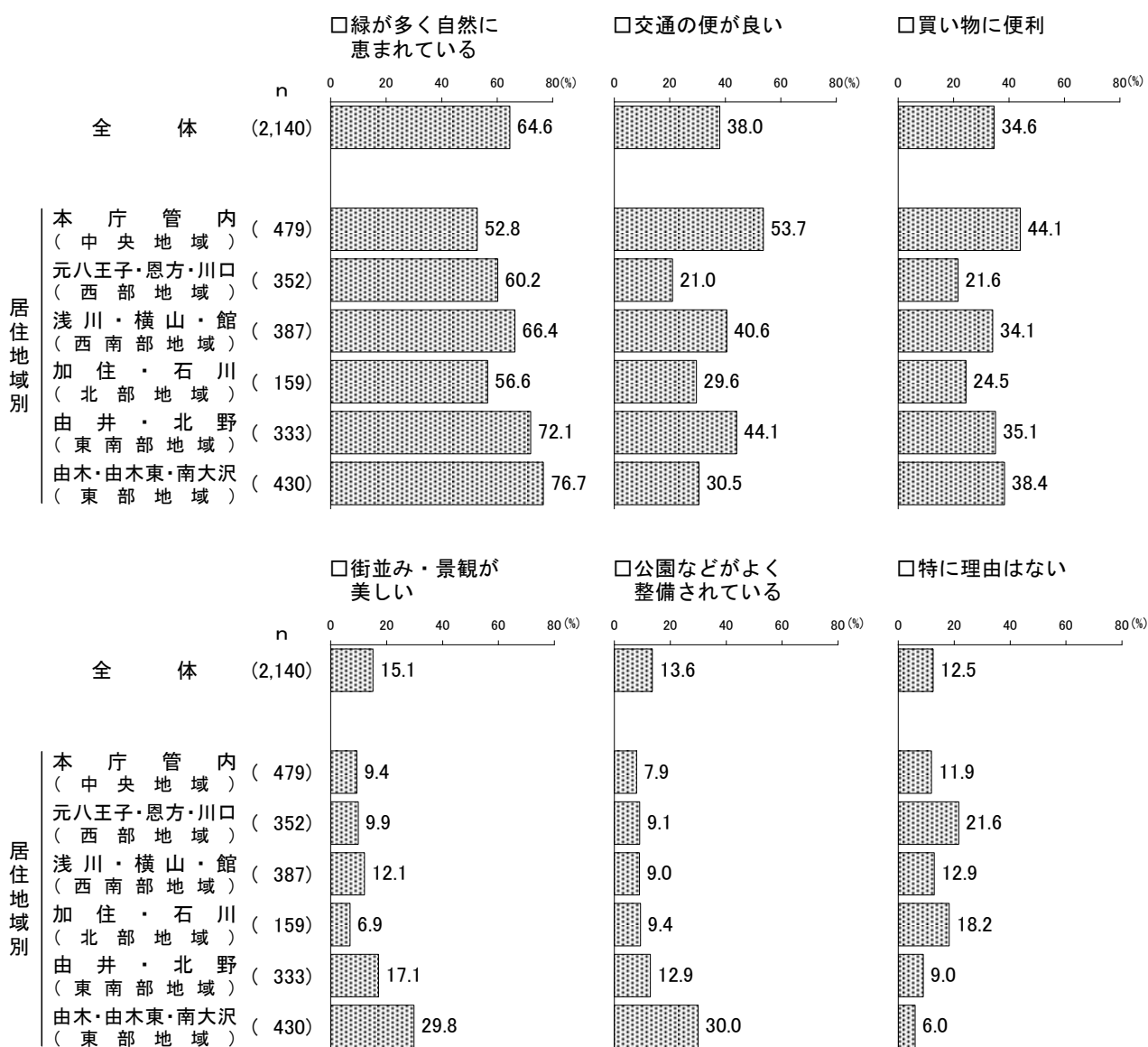
図1-9-2 住みたい理由—性別、性・年齢別（上位5位+「特に理由はない」）



性別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は女性（66.3%）が男性（62.3%）より4.0ポイント高くなっている。一方、「公園などがよく整備されている」は男性（14.9%）が女性（12.4%）より2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は女性50～59歳（69.1%）で7割弱と多くなっている。「交通の便が良い」は女性18～29歳（45.6%）で4割台半ばと多くなっている。「買い物に便利」は男性18～29歳（48.6%）で5割近くと多くなっている。（図1-9-2）

図1-9-3 住み続けたい理由—居住地域別（上位5位＋「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（76.7%）で8割近くと多くなっている。「交通の便が良い」は本庁管内（中央地域）（53.7%）で5割強と多くなっている。「買い物に便利」は本庁管内（中央地域）（44.1%）で4割台半ばと多くなっている。

（図1-9-3）

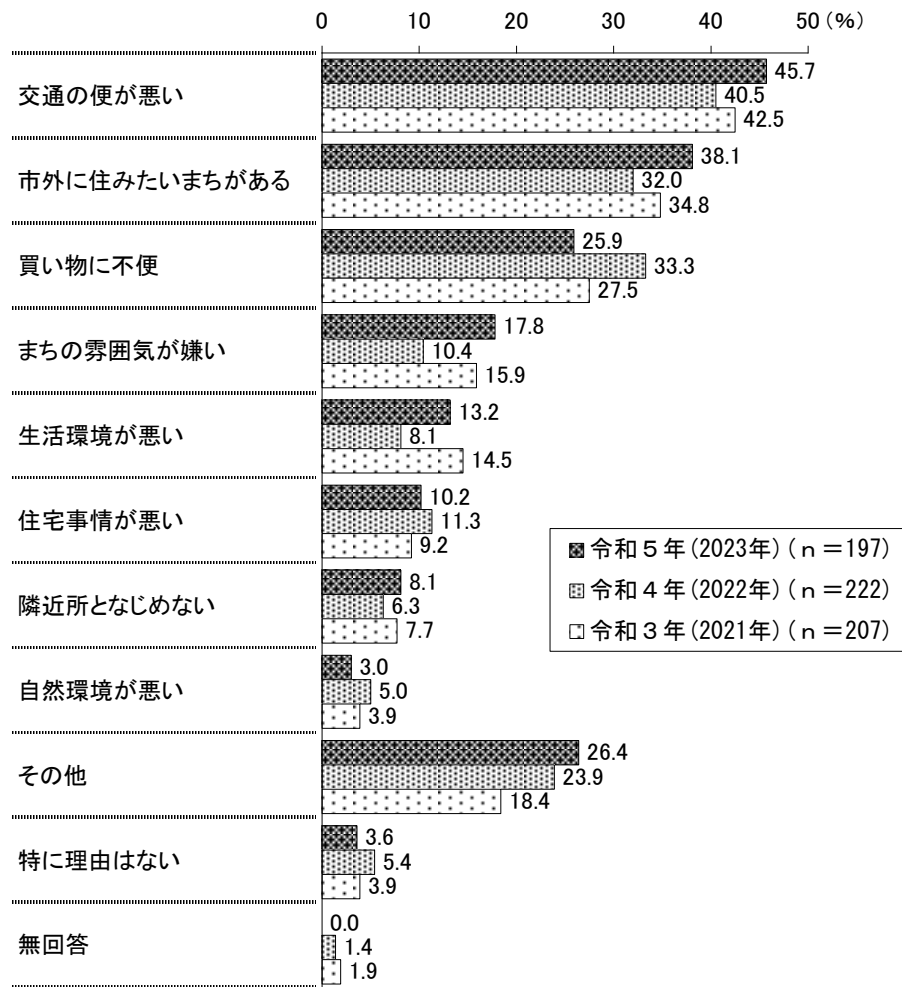
(10) 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割台半ば

(問7で「市外へ移りたい」とお答えの方へ)

問7-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

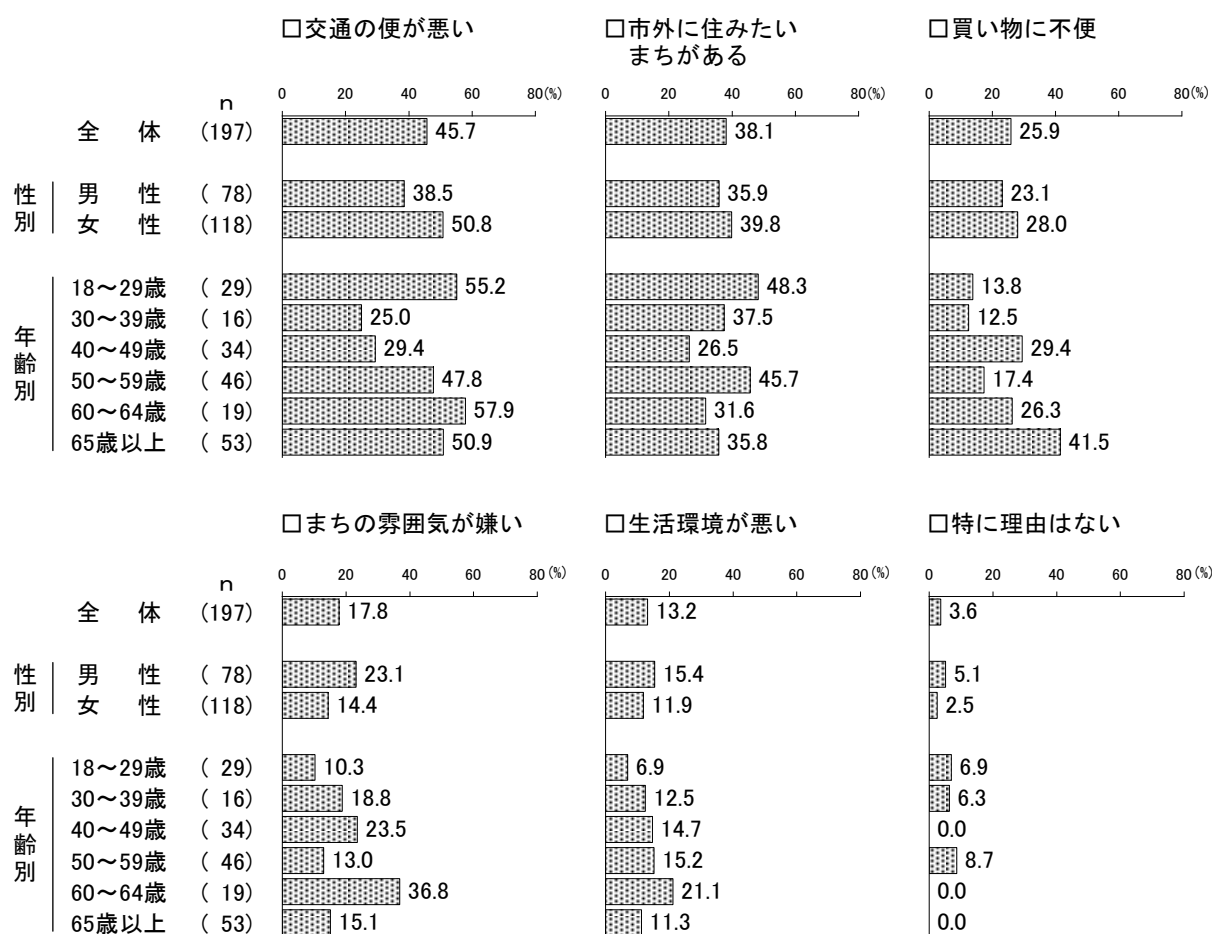
図1-10-1 市外へ移りたい理由-全体、経年比較



八王子市から「市外へ移りたい」と回答した197人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(45.7%)が4割台半ばで最も多くなっている。次いで「市外に住みたいまちがある」(38.1%)、「買い物に不便」(25.9%)、「まちの雰囲気が嫌い」(17.8%)、「生活環境が悪い」(13.2%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「まちの雰囲気が嫌い」は令和4年(2022年)(10.4%)より7.4ポイント、「市外に住みたいまちがある」は令和4年(2022年)(32.0%)より6.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「買い物に不便」は令和4年(2022年)(33.3%)より7.4ポイント減少している。(図1-10-1)

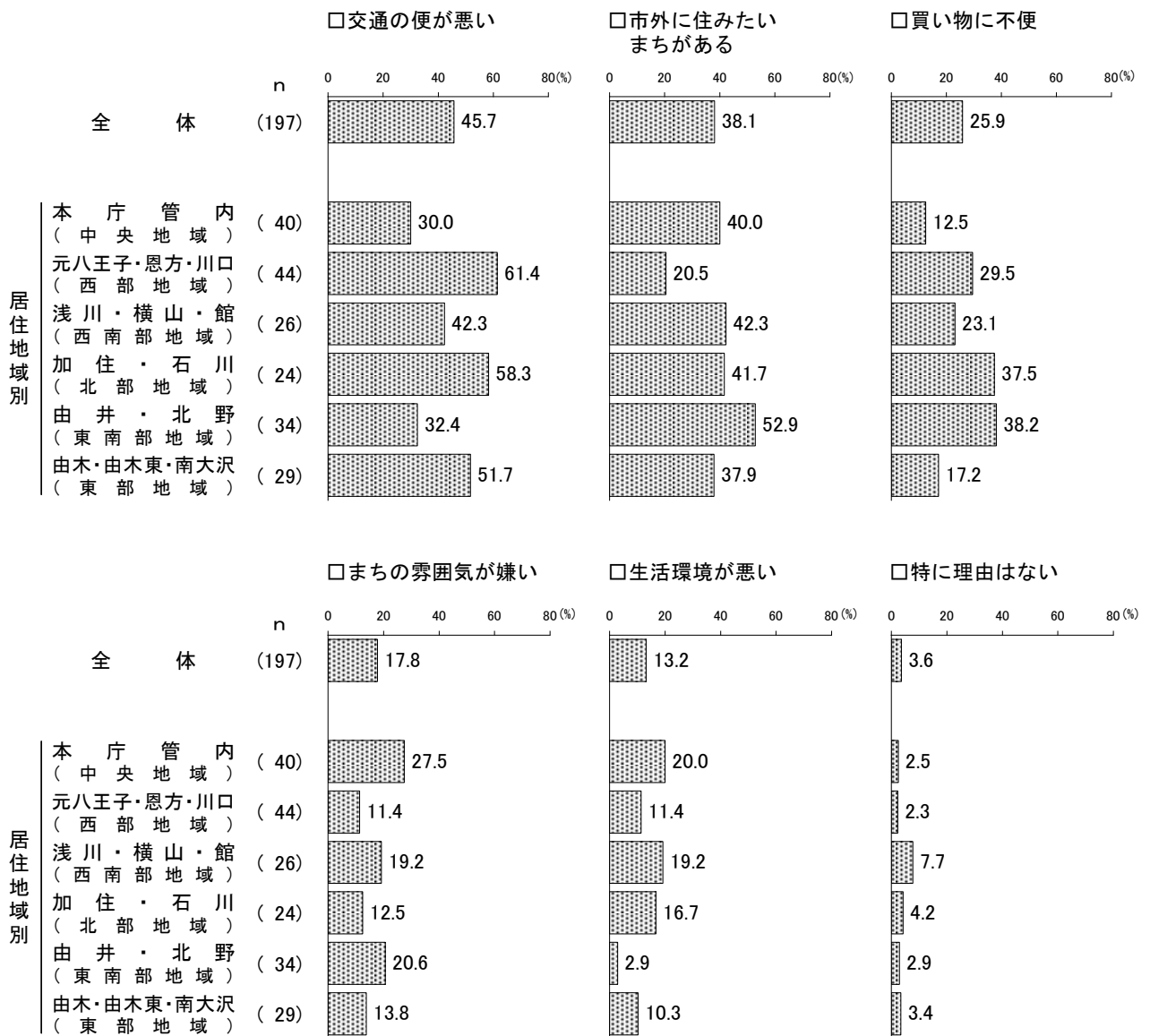
図 1-10-2 市外へ移りたい理由—性別、年齢別（上位 5 位+「特に理由はない」）



性別にみると、「交通の便が悪い」は女性（50.8%）が男性（38.5%）より12.3ポイント高くなっている。一方、「まちなりの雰囲気が嫌い」は男性（23.1%）が女性（14.4%）より8.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は65歳以上（50.9%）で約5割と多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は50~59歳（45.7%）で4割台半ばと多くなっている。「買い物に不便」は65歳以上（41.5%）で4割強と多くなっている。（図 1-10-2）

図1-10-3 市外へ移りたい理由—居住地域別（上位5位+「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（61.4%）で6割強と多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は由井・北野（東南部地域）（52.9%）で5割強と多くなっている。「買い物に不便」は由井・北野（東南部地域）（38.2%）で4割近くと多くなっている。（図1-10-3）

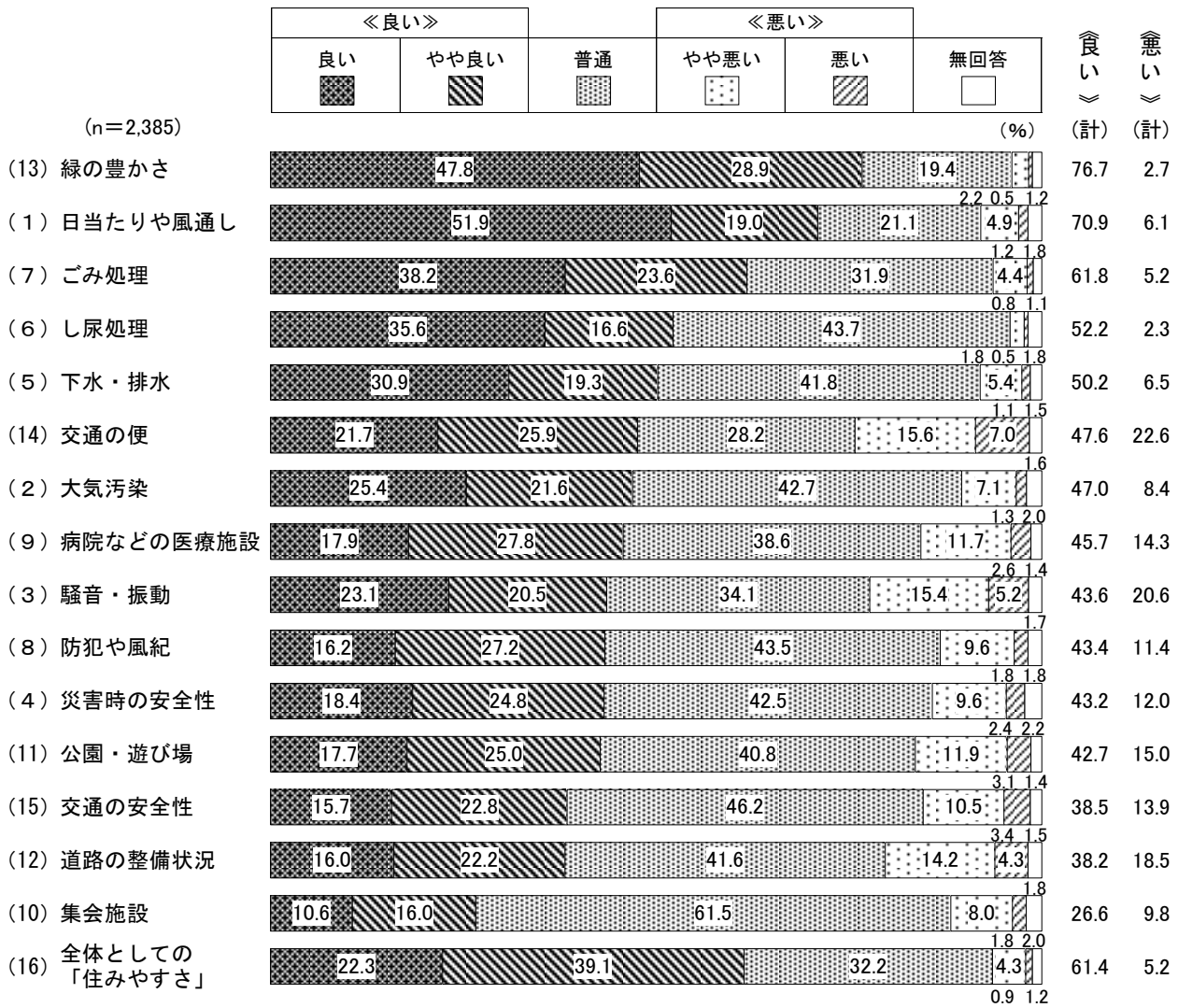
(11) 生活環境の評価

◇《良い》は、「緑の豊かさ」が8割近く、「日当たりや風通し」が約7割

問8 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1ずつ)

図1-11-1 生活環境の評価—全体



(注) (16) 全体としての「住みやすさ」を除き、「良い」と「やや良い」を合算し、比率の高い順に並べた。

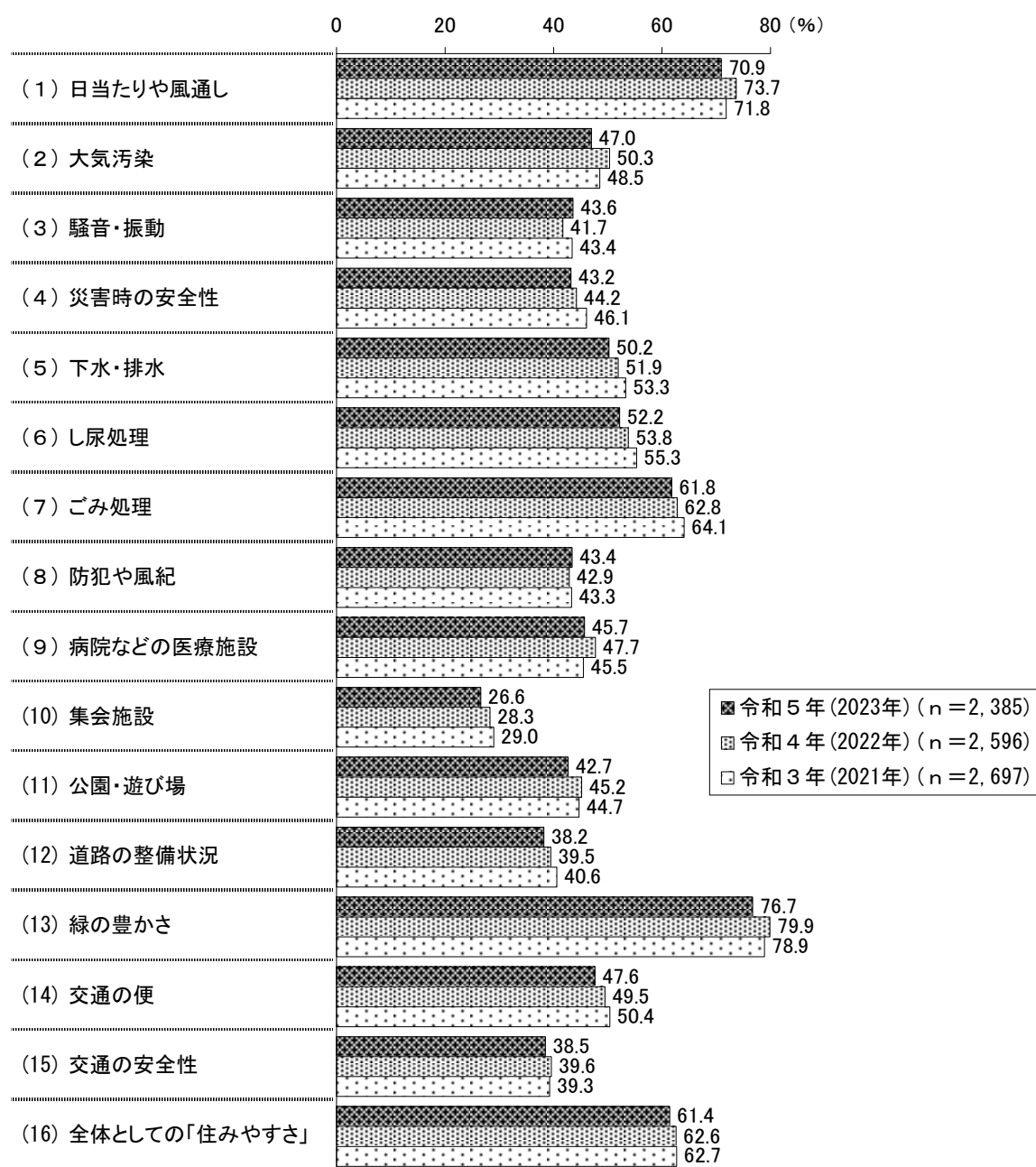
周囲の生活環境について日頃どのように感じているか聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》は、(13) 緑の豊かさ (76.7%) が8割近くで最も多くなっている。次いで(1) 日当たりや風通し (70.9%)、(7) ごみ処理 (61.8%) などの順で上位となっている。

一方、「やや悪い」と「悪い」を合わせた《悪い》は、(14) 交通の便 (22.6%) が2割強で最も多く、次いで(3) 騒音・振動 (20.6%) などの順となっている。

また、(16) 全体としての「住みやすさ」は、《良い》 (61.4%) が6割強となっている。

(図1-11-1)

図 1-11-2 生活環境の評価—経年比較（「良い」＋「やや良い」）



「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》について前回までの調査と比較すると、令和4年(2022年)より、(2) 大気汚染で3.3ポイント、(13) 緑の豊かさで3.2ポイント、それぞれ減少している。

(図 1-11-2)

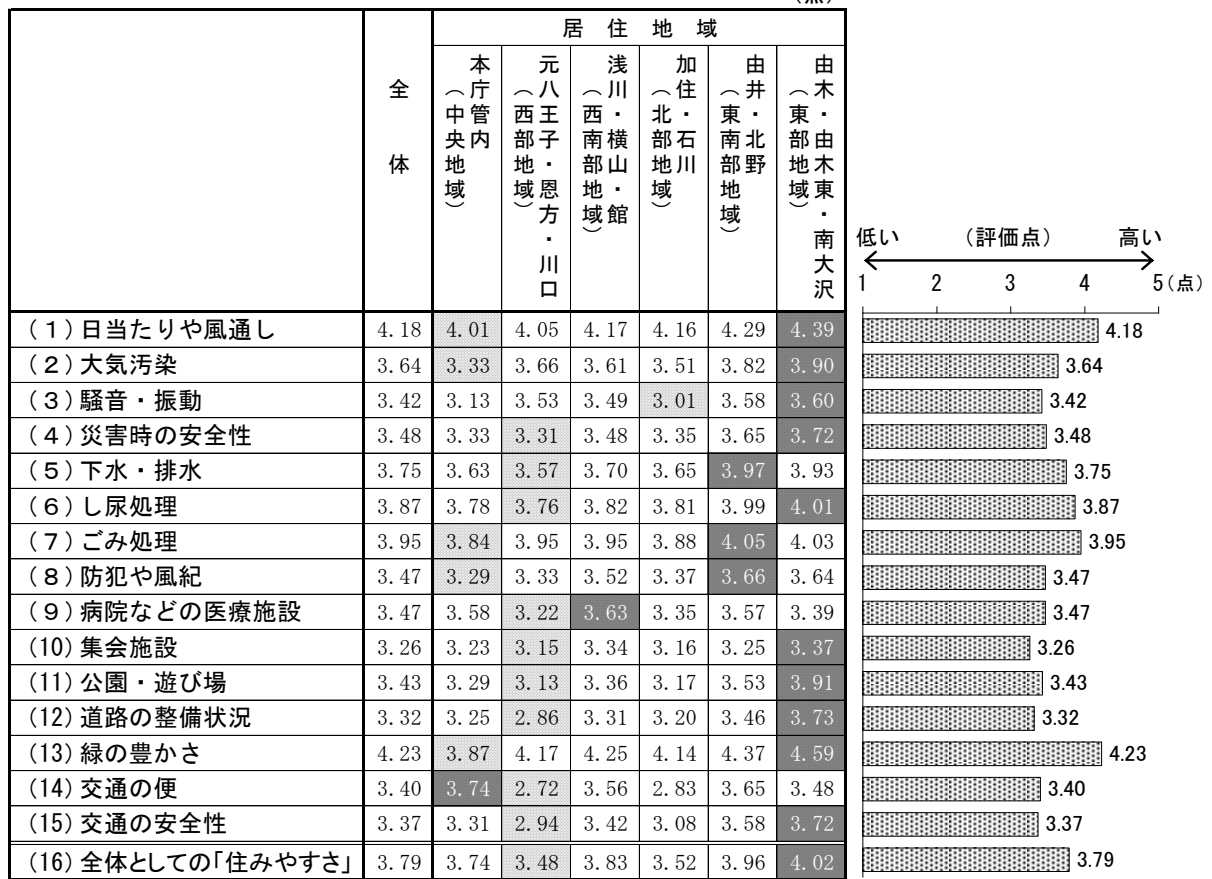
加重平均値（満足度）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \left[\left(\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} \right) + \left(\text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} \right) + \left(\text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \right) + \left(\text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} \right) + \left(\text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点} \right) \right] \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど評価は高くなり、1.00点に近くなるほど評価が低くなる。

図1-11-3 生活環境の評価—加重平均
(点)



(注) は項目内での最高値 は項目内での最低値

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの5項目は次のようになっている。

【上 位】		【下 位】	
緑の豊かさ	(4.23点)	集会施設	(3.26点)
日当たりや風通し	(4.18点)	道路の整備状況	(3.32点)
ごみ処理	(3.95点)	交通の安全性	(3.37点)
し尿処理	(3.87点)	交通の便	(3.40点)
下水・排水	(3.75点)	騒音・振動	(3.42点)

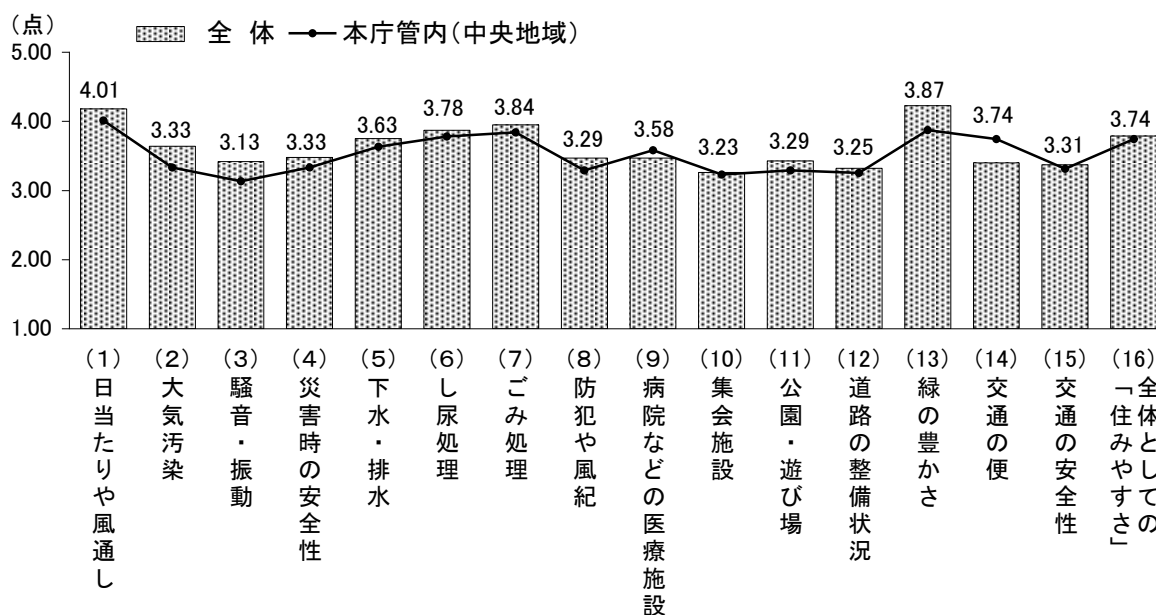
(図1-11-3)

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.34ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中14項目で、最も差が大きいのは（13）緑の豊かさ（-0.36ポイント）となっている。（図1-11-4）

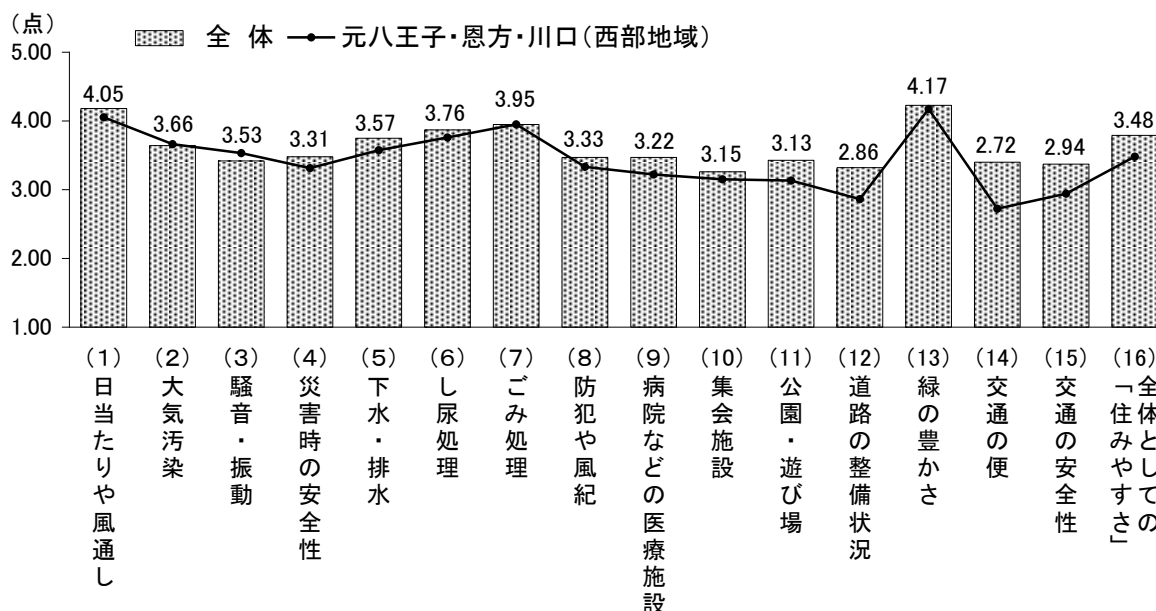
図1-11-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは（3）騒音・振動（+0.11ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（-0.68ポイント）となっている。（図1-11-5）

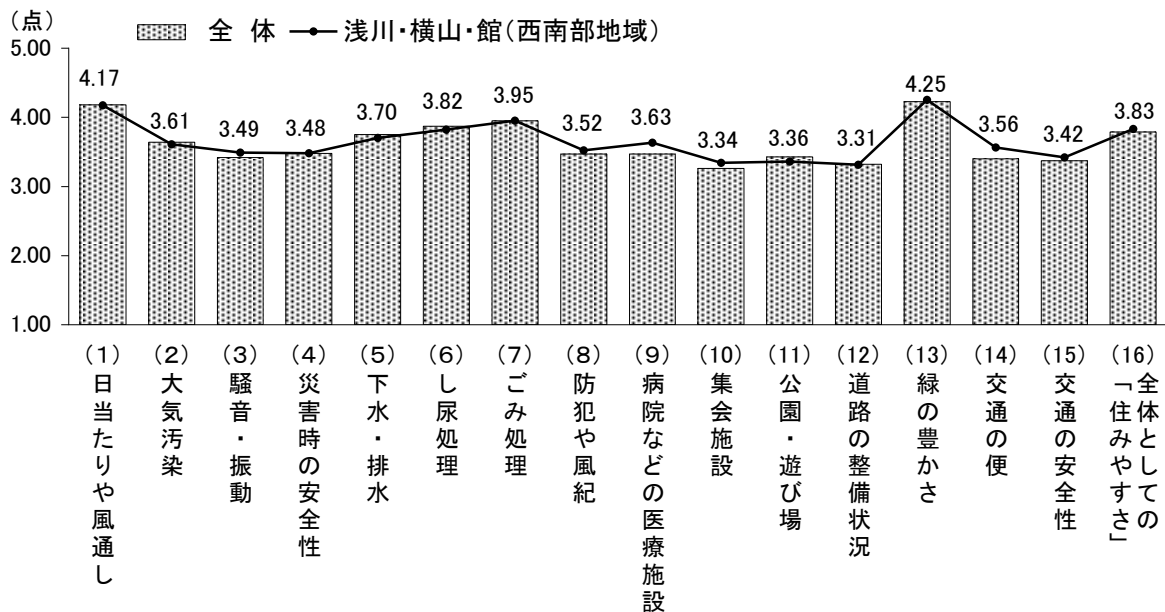
図1-11-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中8項目で、最も差が大きいのは（9）病院などの医療施設と（14）交通の便（ともに+0.16ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中6項目で、最も差が大きいのは（11）公園・遊び場（-0.07ポイント）となっている。（図1-11-6）

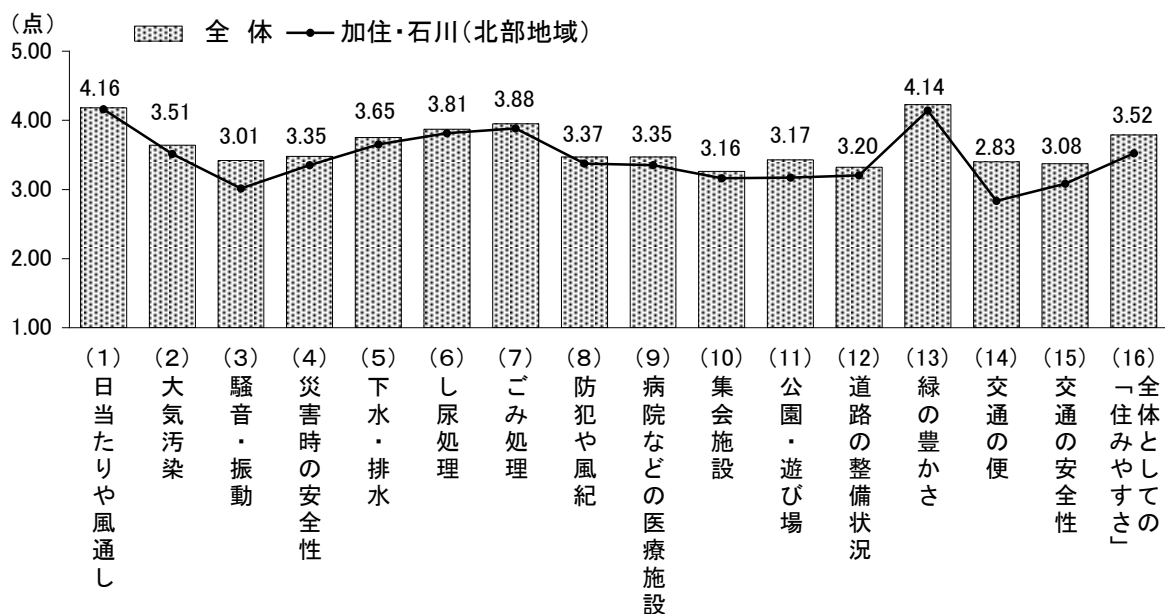
図1-11-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より全ての項目で下回っており、最も差が大きいのは（14）交通の便（-0.57ポイント）となっている。（図1-11-7）

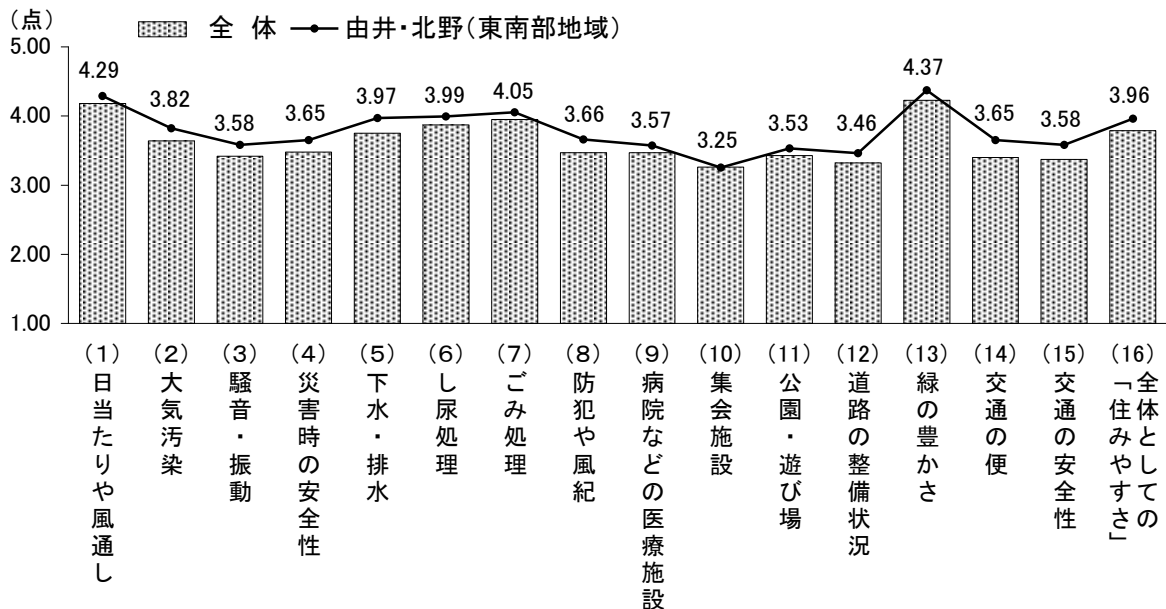
図1-11-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.25ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中1項目で、（10）集会施設（-0.01ポイント）となっている。（図1-11-8）

図1-11-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（11）公園・遊び場（+0.48ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中1項目で、（9）病院などの医療施設（-0.08ポイント）となっている。（図1-11-9）

図1-11-9 生活環境の評価（加重平均）－居住地地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」

